

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)					
2 入学生の確保	<p>(現状)</p> <p>○近年の入学生はH31が59名、R2が70名、R3が67名(農業生産学部 58名/70名、いちご学科 9名/10名)と定員80名を下回っている。</p> <p>○R3の受験者は定員と同数の80名(農業生産学部 67名/70名、いちご学科 13名/10名)であった。</p> <p>○R2の農業生産学部(旧本科)オープンキャンパスは、通常3回のところ、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、6月実施分が中止となったこともあり、2回で83名の参加にとどまった。</p> <p>○R2のいちご学科初めてのオープンキャンパスについては、学科の募集定員10名のところ、日曜日の実施2回で43名の参加があった。</p> <p>○農業関係以外の普通科系高校への訪問、HPへの年間100回を超える記事公開、農大農産物の販売や各種イベント会場としての活用等により、農大のPRを行っているが、R2は新型コロナウイルス感染症の感染対策として農大祭をはじめイベント等の中止、縮小が相次ぎ、生産物の販売等によるPRが十分に行えなかった。</p> <p>(課題)</p> <p>●高校生、また特にいちご学科に関しては大学生や社会人、農業者等に対して、農大の存在や特徴を認知してもらう必要がある。</p> <p>●就農を目指す応募者の増加を図り、入学後の就農へのサポートも適切に行い、就農率向上につなげる必要がある。</p> <p>●本県農業の特徴や目指す方向である、いちごや露地野菜をコース名等として表出するなど、対外的にわかりやすいコース設定を検討する必要がある。</p>	<p>全体応募者 80名以上</p> <p>農業生産学部入学者 70名以上</p> <p>農業経営学部(いちご学科)入学者</p> <p>オープンキャンパス全体参加者 160名以上</p>	(1)オープンキャンパス等による農大の理解促進	<p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染防止のため、規模縮小・時間短縮して実施するが、各回ごとにプログラム等を工夫し、6月～7月の間で3回実施し、より多くの参加者の確保に努める。</p> <p>・第1回は対象を県内農業高校の生徒・教員に限定し、各校の先輩農大生との対話の時間等を設け、参加者が農大に親近感を持てるよう工夫する。</p> <p>・第2回、第3回は参加者の利便性を考慮し、日曜日の開催とし、1日で農業生産学部と農業経営学部(いちご学科)双方のオープンキャンパスに参加が可能となるよう、プログラム等を工夫して実施する。</p> <p>・農大ホームページにオープンキャンパス開催に係る情報を適時適切に掲載する等、積極的な情報発信を行っていく。</p> <p>・ポスター・チラシ等を早期に作成のうえ、関係機関等に配付し、オープンキャンパス開催のPRに努める。</p> <p>・高校2年生を対象とした学校見学会を実施する。(新型コロナウイルス感染拡大状況を考慮し計画作成)</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・体験会を農業生産学部の第2回、第3回(一般高校向け)開催時に取り入れる。</p> <p>・学生課、教務部が連携して、参加者に受け入れやすいプログラムを作成する。</p>	<p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・オープンキャンパスを6月11日・20日、7月18日、9月23日(いちご学科)に4回開催</p> <p>・第1回は県内農業高校の先輩学生との意見交換会を開催し好評</p> <p>・第2回・3回は日曜開催とし、保護者を含め253名と多数の参加者</p> <p>・農大ホームページにオープンキャンパス開催に係る情報を適時掲載</p> <p>・ポスター・チラシを早期に関係機関等に配付</p> <p>・第2回、第3回は1、2年生も参加して実施</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・第2回・3回オープンキャンパス開催時に体験会を開催し好評</p>	<p>A (106名/80名=133%)</p> <p>A (74名/70名=106%)</p> <p>C (6名/10名=60%)</p> <p>A (184名/160名=115%)</p>	<p>○効果的なオープンキャンパス等行事の開催</p> <p>・いちご学科の3回目のオープンキャンパスは出願期間まで期間が短く、早期に開催する。</p> <p>・来年度は、5月にいちご学科のオープンキャンパスを開催し、早い時期に参加者を確保する。</p> <p>・高校2年生を対象にいちご学科のオープンキャンパスを1月に開催し翌年度の受験生確保に繋げる。</p> <p>○オープンキャンパスの魅力向上</p> <p>・いちご学科のオープンキャンパスをいちごが収穫できる時期に開催する。</p>	<p>・開催の早期化、回数の増加や内容の工夫等により、オープンキャンパス参加者の増加につながったと思う。</p> <p>・農業生産学部は応募者、入学者が目標を超え、取り組みを評価する。来期も達成を目指して欲しい。</p> <p>・コロナ禍の中、オンラインでのオープンキャンパス実施を検討してはどうか。</p>
			(2)高校、JA等への農大PRの推進	<p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・学校説明会や出前授業等に積極的に参加して、農大のPR等情報発信を図る。</p> <p>・農業関係高等学校長等等の機会を活用し、学校長等と意見交換や施設見学を通して、農大のPRを積極的に行う。</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>・学校説明会や出前授業等に積極的に参加して、農大のPR等情報発信を図る。</p> <p>・キャンパスガイドやオープンキャンパス等学校行事の情報をホームページやSNS等により積極的に行う。</p>	<p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・農業関係高等学校校長会や高校農場担当主任等との意見交換会の実施</p> <p>・農大施設見学会を実施してPR</p> <p>・学校説明会を全7校で実施(矢板高校3回、小山北校高校3回、栃木農業高校3回、宇都宮白楊高校2回)</p> <p>・出前授業を鹿沼南高校で実施</p> <p>・高大連携事業の導入として次世代デジタル農業教育推進事業について検討</p> <p>・12/15 高大連携事業で真岡北陵高校と農大のいちごハウスからオンライン授業を実施</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ</p> <p>・学校説明会を茂木高校・壬生高校・真岡工業高校・矢板中央高校・宇都宮青陵高校の5校で実施</p>	<p>※評価基準 A: 90%以上 B: 70%以上 90%未満 C: 50%以上 70%未満 D: 50%未満</p>	<p>○県内高校生を対象とした農大PR</p> <p>・農業高校とのオンライン授業に向けた要望や課題を整理し、オンライン授業を実施する。</p> <p>○県内農業系以外の高校への戦略的アプローチ 引き続き、学校説明会に積極的に参加し、学校PRに努める。</p>	<p>・農業高校向けに実施したオンライン授業は好評、新たなPR手段になる。</p> <p>・高校の授業の中でスマート農業などの先端技術の見学や体験実習ができると良い。オンラインでの実践を含めて連携できればよい。</p> <p>・就農する学生が増えれば、入学希望者が安定して確保できると考える。</p> <p>・教育内容は充実しているので、PRを強めてもらいたい。</p>

目指す方向 魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、農大への人の流れを作ろう！～

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会からのコメント
			取組項目(○)と内容(・)					
	<p>●「いちご学科」について、農業振興事務所や農業関係団体等との連携の確立とともに、高校生、大学生、社会人等幅広い年代層への積極的な広報活動等により、学生の確保を図る必要がある。</p>			<p>○県外高校対策強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県外の入学実績のある高校等に対して、個別訪問や学校説明会への参加等により、入試ほか農大の情報発信を積極的に行い、進路指導に反映させてもらう。</li> <li>○JAへの訪問</li> <li>いちご学科で実施する産地調査等においてJAを訪問する際、学生自らが学科のPRを併せて行う。</li> </ul>	<p>○県外高校対策強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大のため実施なし</li> </ul> <p>○JAへの訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産地調査(5月～7月)では7地区8JAを訪問、学生に対しては事前に質問事項を準備させ、活発な意見交換が行えるよう配慮</li> </ul>		<p>○県外高校対策強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の情勢を見ながら実施していく。</li> </ul> <p>○JAへの訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、同様に実施するとともに、いちご部会を対象とした学科PRのための説明会を開催する。</li> </ul>	<p>・学生を講師とした栽培学講座など動画をホームページに掲載したら反響があるのではか。</p> <p>・いちご学科の斬新なポスターは良かった。</p> <p>・いちご学科はさらなる認知度向上が必要である。引き続き様々な方法での周知をお願いしたい。</p> <p>・高校生の気を引くようPR誌にはアニメキャラを取り入れたらよいのではないか。</p> <p>・農業に対する魅力を積極的にアピールする必要がある。</p>
			(3)農大の魅力発信の工夫	<p>○HPの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の目を引きつけるような見やすいHPとなるような内容に更新する。</li> <li>・県内外から多くの応募者を確保するため、農業生産学部、農業経営学部(いちご学科)、研修科の情報をきめ細やかに発信し、広くPRを図る。</li> </ul> <p>○各種広報誌等でのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季刊誌における学部紹介や学生PR等の誌面充実に努めるほか、外部広報誌等への新規開拓を図る。</li> <li>・県広報課事業等を活用し、関係団体や金融機関等民間に学生募集のポスター掲示やリーフレット設置を依頼し、積極的な広報活動を行う。</li> </ul> <p>○マスメディアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞社や放送局等にイベントや学生募集等の情報発信を積極的に行い、掲載や放送を通して農大のPRを図る。</li> </ul> <p>○その他広告物や学校生産物等によるPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農大をはじめ各公共施設、また事業やイベントにおいて、広告物や看板等の設置を検討し、可能なものから予算の確保も含め、順次実施していく。</li> <li>・民間施設や各種イベント主催者との協賛等、農大の生産物販売を通して学生と生産物等農大と学生募集のPRの機会拡充の検討を行い、協議が整ったものから積極的に実施していく。</li> </ul>	<p>○HPの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を多用するなど、見やすいホームページを作成</li> <li>・いちご学科案内パンフレットの作成</li> </ul> <p>○各種広報誌等でのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内故郷季刊誌「しもつけの心」に就農予定者を投稿し、就農予定者をPR(R3年度投稿結果:4回×2名、全8名)</li> <li>・「百花繚乱」への学校紹介を掲載</li> <li>・「農大だより」を発刊し、農業高校へのPR活動に活用</li> <li>・地産地消学校教育事業を活用したPRの実施について検討</li> </ul> <p>○マスメディアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いちご学科の取り組みをTVや新聞のマスコミに対し積極的に情報を発信</li> <li>・農大から発信できる事業について検討</li> </ul> <p>○その他広告物や学校生産物等によるPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関のイベントがコロナ禍でほとんど中止になり、ポスターやパネルの展示なし</li> <li>・コロナ禍の中、感染防止対策により農産物販促活動をカインズホーム店内で6回、とちぎ花センターで1回開催</li> </ul>	<p>○HPの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目を引きつける内容となるよう取り組んでいく。</li> <li>・学校紹介できる雑誌、資料へ投稿を行う。</li> <li>・「農大だより」の作成と農業高校への配布を予定。</li> </ul> <p>○各種広報誌等でのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、「しもつけの心」に就農意欲の高い学生の原稿を投稿していく。</li> <li>・農業関係機関に対して、外部機関誌を利用しPRを図っていく。</li> <li>・小、中学校への県内農産物と併せて農大のPR用DVDビデオを作成する。</li> </ul> <p>○マスメディアの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農大で行われたイベント、外部講師による授業、オンライン授業等及び農業機械寄贈式やオープンキャンパス、見学会などについて、随時マスコミへの情報提供及びホームページへの掲載を実施していく。</li> <li>・情勢を見ながら可能なものから事業やイベントにおいて、順次実施していく。</li> </ul>		
			(4)入試方法の改善	<p>○出願期間等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の農業系大学のスケジュールも見ながら、学生募集の門戸が広がるよう、最終の後期試験の出願期間を前期試験の合格発表後に設定する等、出願者をより多く確保できるよう努める。</li> </ul>	<p>○出願期間等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期試験合格発表後に後期試験出願期間を設けることを計画(今年度は推薦入試の受験生が多く、学生確保を早期にできたため後期試験の実施なし)</li> </ul>	<p>○出願期間等の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期試験合格発表後に後期試験の出願期間を設ける。</li> <li>・いちご学科については、ターゲットを絞った募集を行い、試験の機会を増やす。</li> </ul>	<p>・入学者選抜に当たり、学校農業クラブの取組内容とその成果及び「アグリマイスター顕彰制度」の適切な評価をお願いしたい。</p> <p>・いちご学科の就農要件の緩和と多様な人材発掘</p>	